

関係各位

阪神地区・三田市陸上競技協会
会 長 新田 大介（尼崎市）

阪神陸上競技選手権大会 廃止について

例年7月末に開催してまいりました阪神陸上競技選手権大会ですが、誠に恐縮ながら本年度（令和7年度）をもちまして終了させていただきたく、ご案内申し上げます。

長年にわたり阪神地区の陸上競技振興に貢献してまいりました本大会の廃止は、苦渋の決断でございます。大会存続の可否について、主催する阪神地区の各陸上競技協会の皆さまと慎重に協議を重ねた結果、以下の理由により継続が困難であるとの結論に至りました。何卒ご理解いただけますようお願い申し上げます。

《阪神陸上競技選手権大会 廃止の理由》

○大会開催時期の問題

- ・高校は、開催時期が県ユース予選会直後であり、さらに全国インターハイや各校の合宿時期と重なるため、近年は参加校が減少傾向にあります。また、中学校は、県中学総体と日程が近接しており、参加が難しい状況です。
- ・近年、大会開催時期の猛暑により、熱中症対策など運営上の不安が増大しています。
- ・秋シーズンへの開催時期変更も検討しましたが、他の競技会との日程調整が極めて困難であることが判明しました。

○競技会の過密スケジュール

- ・約50年前に本大会が始まった当時と比較し、競技会の開催が増加しており、参加者の日程調整がより一層難しくなっています。

○中学校、高等学校顧問の皆さまの状況

- ・協会主催の競技会は、本大会も含め、中学校、高等学校顧問の皆さまの協力なしには運営は成り立たないのが現状です。阪神地区・三田市の中高顧問の先生方には、地元の大会としてこれまで多大なご協力をいただいております。しかしながら、「必ずしも生徒を参加させたい大会と望まれていない」というお声も耳にしております。

○担当市陸上競技協会関係者の業務負担増大

- ・以前は尼崎市陸上競技協会が申込事務から大会準備まで一手に担っておりましたが、関係者の業務負担が大きく、2年ごと輪番制で各市町が担当する体制へと変更し、現在に至ります。
- ・輪番制になったとはいえ、申込事務から大会準備まで担当する一部の陸上競技協会関係者の業務負担は依然として大きい状況です。加えて、教員以外の公認審判員の高齢化が進み、競技役員確保も年々難しくなって来ております。

これまで阪神陸上競技選手権大会の運営に関し、関係各位におかれましては多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。長きにわたりご支援いただきましたこと、心より感謝申し上げます。本大会の廃止は大変心苦しい決断ではございますが、上記の状況をご賢察いただき、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。